

令和5年度第2回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和5年12月1日（金）午後2時00分～午後3時15分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、河北委員、足立委員、加賀山委員、善積委員、塩見育委員、中井委員、
芦田委員、西村委員、塩見建委員

欠席委員：河西委員

事務局：山路館長、四方次長、塩見係長、中嶋係長

傍聴者：なし

議題：（1）令和4年度図書館年報について

（2）「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和4年度実績報告について

（3）令和5年度 図書館事業報告（令和5年4月～11月）について

（4）三和分館の移転について

（5）蔵書点検について

（6）図書館協議会委員の公募について

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和4年度図書館年報について

～資料「令和4年度図書館年報」に基づき、事務局から説明～

内容：図書館年報の主な内容について

事務局：それでは、「令和4年度図書館年報」の報告をさせていただきます。事前にお送りしております、黄色の表紙の冊子をご覧ください。

「図書館年報」とは、図書館の沿革や資料冊数・利用状況などの各種統計、一年間の利用状況、実施した事業などをまとめ、年度ごとに発行している冊子となります。

委員の皆様には、事前に図書館年報をお送りしたところですので、主要な部分を中心に説明いたします。

表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。内容は、大きく8項目となっております。

1ページをご覧ください。図書館の沿革について、掲載をしております。

次に4ページをご覧ください。令和4年度の図書館の沿革について、掲載をしております。令和4年9月には空調設備及び照明工事のため夜久野分館を一か月間臨時休館することとなりました。

令和5年1月には、令和4年1月に導入しました「ふくちやま電子図書館」が貸出数と閲覧数の2部門で全国1位を獲得しました。

9ページからは「図書館資料の概要」を掲載しており、所蔵資料の数は、令和3年度の「333,950冊」に対し「8,282冊」増の「342,232冊」となっております。

15ページからは令和4年度の「利用統計」を、25ページからは平成29年度以降の「各種統計の推移」を掲載しております。

所蔵資料数は、毎年増加をしている状況にあり、実利用者数、貸出点数、入館者数についても新型コロナウイルス感染症の影響が改善傾向にあったこともあり、令和3年度に比べ、令和4年度は増加をしました。

こちらのデータには載っておりませんが、電子図書館を導入した効果として、貸出点数について、一番のピーク時が平成27年度の641,145冊になるのですが、令和4年度については、電子書籍を合わせると683,686冊になり、ピーク時より貸出点数が増加している状況となりました。またその内、電子書籍の貸出数は、184,235冊でした。

27ページからは、事業報告になります。講座・講演会やおはなし会等の各種イベント、毎月の企画展示等、各館の実績を掲載しており、昨年度の委員の皆様のお名前等も掲載しております。

最終の40ページには、各種指標を載せております。

以上、駆け足となりましたが、令和4年度図書館年報のご報告とさせていただきます。

委員：事務局の方から特に特徴的なことなどがあればお願いします。

事務局：そうですね。先ほど言わせていただいたとおり、やはり貸出点数が過去のピーク時を超えたということで、電子書籍の導入の効果がでていいるなど分析しております。また、14ページにはここにおられる委員さんにもお世話になっております雑誌スポンサー制度について掲載しております。

小中学生については、電子書籍を読んで、それをきっかけに紙の本にももっと興味を持ってくれたら考えております。

2 「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和4年度実績報告について

～資料「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画に係る令和4年度実績報告」に基づき、事務局から報告～

内容：令和4年度の取組み状況について

事務局：第3次福知山市子どもの読書活動推進計画を令和3年2月に策定しまして、今回の令和4

年度の実績報告は計画の2年目の報告になります。

子育てに関する各関係機関の担当に実績報告を出していただき取りまとめているものです。令和4年度につきましては、令和3年度に引き続きまして、With コロナとしてできることを工夫しながら取り組んできました。

まず、「家庭で本と出会う」ということで、家庭での読書活動についてですが、ブックスタート事業においては、4か月検診時にブックスタートのボランティアさんによる1対1での読み聞かせを行うことができずに、令和3年度に引き続き、図書館で読み聞かせ体験を月2回実施しました。

令和4年11月に三段池に子育て支援施設としてりとるハピネスがオープンしまして、昨年の12月から毎月図書館職員によるお話を実施しました。りとるハピネスでは貸出セットも継続して利用いただいております。

図書館でのおはなし会についても令和4年度は、4月、5月は5組までの制限をかけたいましたが、7月以降は8組までに緩和し、現在は申込なしで実施しています。

次に「保育園・幼稚園・こども園等で本と出会う」ということで、コロナ前は園から家庭へ本を貸出されていましたが出来なくなっていました。令和4年度は、絵本の消毒ができるようにブックカバーにコーティングをして少しずつ家庭への貸出を再開されています。

次に「学校で本と出会う」ということで、それぞれの学校で工夫をしながら読書活動に取り組んでいただいております。

朝読書については、ほとんどの学校で取り組まれており、タブレットを活用した読書についても問い合わせ項目にしたところ、朝読書や調べ学習などで活用いただいている学校もありました。その一方で導入当初は活用していたが、現在ではあまり利用していないと回答のあった学校もありました。また、一部の学校では朝読書では電子書籍は禁止にして、紙の本を読むことを推進しておられました。

学校司書に関しては、学校を任せもちされており、1校あたり週1～2回の勤務となり、図書担当教諭との直接の打ち合わせや相談に関する時間がなかなか取れないという課題が上がっています。

そのような中、今年度は夏に学校司書研修会と学振の図書部会との合同研修会を実施することができ、学校の図書担当教諭と学校司書との意見交流の場を持つことができました。

最後に「図書館で本と出会う」ということで、「暮らしに読書を、おうえん貸出セット」の利用実績としては、119セット延べ5,950冊の利用がありました。令和4年度の新規登録は6団体で、りとるハピネスや公立大学のまちかどキャンパスにも登録いただき、利用をしてもらっています。

今年度はミニ貸出セットや特別拡大サービスといった新しいサービスを開始し、書影付きのリストを新たに作成し関係機関に周知をおこなうなど取り組んでいるところです。

図書館のイベントとしては、コロナ禍で実施が難しかったものも再開し、朗読ボランティア有志のみなさんによる朗読会の3年ぶりの開催や、バリアフリー上映会も再開することができました。

対面読書サービスも令和4年度から再開しましたが、現在まで申し込みがない状況ですが、今年度から Zoom による対面読書サービスを開始し、それには2件ではありますが、申込をいただいています。

また、今年度から図書館読書ボランティア登録制度を開始し、出張おはなし会でのボランティア保険の加入や研修室の利用など読書活動支援事業として実施をしています。ボランティアさんについては、現在14団体・26個人に登録いただいているところです。

令和4年度にはさまざまなサービスの見直しや新しいサービスの方法を検討しました。今年度はそれらのサービスの運用を実際に開始しているところです。

委員：Zoom の使用料についてはどのようにされていますか。

事務局：使用料はなく、無料版を使用しております。時間的にもなんとかなりますので。

委員：対面読書のサービスは、障害をお持ちの方に対するサービスですか。

事務局：本が読めない、読みにくい、小さい字が読みづらいなど一人で読書をするのが困難な方を対象としております。ご自分で読むことができる方は対象としておりません。

委員：周知はどのようにされているのですか。

事務局：広報ふくちやまやホームページへの掲載、館内でのチラシの掲示、視覚障害者団体さんへのご案内などで周知に努めています。

委員：ボランティア派遣というのは、依頼者となる方に対してはどのように周知されていますか。

事務局：年度当初に関係機関に対して出張おはなし会を実施する旨の周知をし、ホームページにも掲載しておりますが、今年度ボランティア登録制度をスタートし、依頼があれば派遣をさせていただくようにした訳で、なかなか日程があわなかったり、うまくマッチングができるか不安定な部分もあります。

委員：ボランティアを派遣された場合の費用は、図書館がもたれる訳ですね。ボランティアとかサークル活動をしている者は、依頼先との関係性があってお互いの信頼関係の上で、行かせてもらう部分もあります。これまで、依頼者とボランティアが直接調整をし実施をしていた活動まで、今の感じでは、図書館が斡旋業者のように常に間に入り、マッチングを行っていく方向に行っているような感じがして、少し違うのではないかと感じています。

そもそも昨年までは、図書館が行かれていたのでしょうか。

事務局：もともとボランティア登録制度を開始させていただいたのは、図書館の方に児童館や高齢者のサロンなどから様々な依頼があり、その全てにお応えすることが困難な中で、市内で活躍をされているボランティアの皆さんに更に活躍していただき、図書館としてもマンパワーが足りない中で助けていただけたらという思いもあってのものです。現状では、依頼のあったものを順次ボランティアさんをお願いしている訳ですが、大人数の団体の規模の大きな依頼までこの制度の中で実施していくのかなど課題もあると思っており、まだ初年度でありご意見をいただきながら検討をしていきたいと思っています。

事務局：次の今年度の事業報告でもありますが、昨年度まではマンパワーがないところで、申し込んでいただいても日程調整がつかずにお断りをさせていただかなければならないこともありました。そこがボランティアの方に行っていただくことを前提に調整をさせていただけて

おり、それでも調整がつかなかった所は職員が対応するという形になり、お断りをするものがほぼなくなっているのが今年度の現状です。

委員：今ご意見のあった課題等については、事務局でまたご検討願います。

3 令和5年度図書館事業報告（令和5年4月～11月）について

～資料「図書館事業概要報告（令和5年4月～令和5年11月）」に基づき、事務局から報告～

内容：おはなし会など各種事業についての報告

事務局：令和5年度の図書館事業報告をさせていただきます。4月から11月までの間、図書館で実施しました事業についてご説明させていただきます。

おはなし会として、4か月から8か月児対象の「えほんのへや めばえクラス」、9か月から1歳6か月児対象の「えほんのへや わかばクラス」、1歳6か月からを対象とした「おはなしのひろば」、4か月から2歳児を対象とした「ブックスタートボランティアによる読み聞かせ体験」、りとるハピネスでの出張おはなし会、子ども政策室との共催事業としてブックスタートなどを毎月1回を基本として開催しております。また、地域のシニアのふれあいサロンや児童館・放課後児童クラブの子どもを対象とした出張おはなし会を依頼に基づき順次開催をしております。これらの、おはなし会の多くは、先ほども説明させていただきましたとおり登録ボランティアの皆さんにご協力をいただき開催をしております。

社会見学では、保育所、子ども園、幼稚園、小学校を対象とし、特に小学校は2年生が来館されるのが通例になっており、コロナ禍の間は参加校が少なくなりましたが、今年度はほぼすべての学校が見学に来られたということで、コロナの扱いが大きく変わってきたんだなと実感をしているところです。また、今年度、保育園・こども園にも事業をアナウンスさせていただいたところ見学に来られた園もありました。

4月4日には、福知山公立大学の新生を対象に図書館の利用についてのガイダンスに行かせていただいたり、福知山朗読ボランティアの皆さんによる朗読会、2回の学校司書研修会、ボランティア養成講座、本年度から開催をした各関係課との啓発展示などに関したトークイベントを閉館後の図書館でおこなう事業であるナイトライブラリーを計6回開催しております。また、例年実施をしている様々な事業を実施しており、秋のおはなし会スペシャルでは淑徳高校の皆さんによる人形劇も実施しました。

また、展示関係としては、行政の関係各課による啓発展示等を実施し、その関連図書を一緒に展示することにより、書籍にも興味を持っていただけるようにしております。

館内資料展示としては、毎月テーマを決めて1階、2階にテーマ展示コーナーを設置しております。

次に、ふくちやま電子図書館が株式会社図書館流通センターの提供する電子図書館の全国337館の中で、人口当たりの貸出数と閲覧数の両方で、2年連続1位を獲得しました。

職場体験として、京都府立工業高校、綾部中学校、中丹支援学校の生徒の受入れを行いました。

移動図書館の運行については、令和5年10月末時点で、市内40拠点を移動図書館車2台で月1回巡回しており、内訳としては、保育園・こども園8か所、幼稚園3か所、小学校5か所、自治会12か所、福祉施設12か所となっております。

また、バリアフリーサービスについては、対面読書サービスは、令和4年6月からサービスを再開しましたが、現時点では利用実績がなくお客様が戻ってきていない状況にあります。ただ、新しく始めましたZoomによるサービスについては2件のお申し込みをいただいております。

バリアフリーサービスの利用登録者数については、令和2年度が13、令和3年度が14、令和4年度が18、令和5年度が21となっており、宅配サービスの利用状況については、令和2年度4件、令和3年度2件、令和4年度3件、令和5年度が現在のところ2件となっております。

暮しに読書を、おうえん貸出セットについては、令和5年度は10月末までの実績で追加登録団体5、貸出件数84件となっております。

また、委員の皆様にも送付させていただいております図書館だよりの作成・配信、図書の寄贈として、国際ソロプチミスト福知山様から児童書の寄贈をいただいております。

各分館の状況としては、定期的なおはなし会他に、三和分館においては、自然科学講座わくわくスタディーという事業に新規に取り組み「発酵・カビ編」「鉱石編」「鳥編」の3回実施、お外で本とコーヒーと題して「ブックカフェ」を図書館の屋外で2回開催するなど取り組み、11月13日から移転準備のため臨時休館に入っています。

夜久野分館については、新規年齢層を対象としたおはなしのへやと題したおはなし会の実施や夜久野学園の児童生徒の社会見学や職場体験の実施をし、大江分館については夏のおはなし会スペシャルとして中央館で実施をした職員による人形劇を場を移して初めて開催したり、「北丹鉄道100周年記念展示」については、新聞の記事として取り上げられ、遠くからそれを見るために来館されるなどよい取り組みとなりました。また、各分館の毎月のテーマ展示についてもホームページに写真付きで掲載するなどPRに努めました。

以上、令和5年度の図書館での事業概要報告とさせていただきます。

委員：ナイトライブラリーについてですが、私も参加させていただきました。図書館がこういった行事をされることについて、委員になって大変目が開かれる思いで参加をしております。もっとこういった活動が3分館も含めて実施されれば、聞きたい人は多いと思いました。働いておられる方も時間的に参加しやすいと思いますし、できればさらに発展をお願いしたいと思います。

委員：事業報告をされる時に、パソコンをプロジェクターにつないで、説明時に図書館のホームページの記事を写せばわかりやすくいいのではないかと思います。

委員：三和の自然科学講座ですが、参加者も図書館職員も本当に楽しんでやられるのが伝わり、わくわくする雰囲気がすばらしいと感じました。

4 三和分館の移転について

～資料「図書館三和分館休館のお知らせ」「移転オープン記念イベントのチラシ」により事務局から説明～

内容：三和分館の移転の進捗状況について

事務局：三和分館の移転ですが、現在臨時休館をして準備を行っています。三和支所改修工事の中で図書館部分は先に進めていただき、無事に図書館部分については工事が完了しており、11月25日に三和会館の図書館から引越作業をし、現在はすべてのものが新館に移動しております。移転オープンの情報については広報ふくちやま12月号に掲載する形で進めており、このチラシには1月中旬と記載しておりますが、1月12日（金）午前10時にオープンすることになりました。

オープニングイベントとして、おはなし会スペシャルを計画しており、地元の有志のみなさんによる音楽で奏でる本の世界として、本の紹介と音楽を楽しんでいただけるイベントを実施します。また、オープン記念として、三和の産屋をモチーフにして、絵本作家の *tupera tupera* さんにオリジナル作品の制作をしていただいております。

5 蔵書点検について

内容：蔵書点検の実施について事務局から説明

事務局：蔵書点検は、毎年1回、図書館の蔵書が存在するか、正しい場所にあるか、データ内容が間違っていないか等を点検・修正し、図書館の蔵書を管理するために行う作業です。

蔵書点検の実施期間は中央館が令和6年2月12日（月）から2月16日（金）までの5日間、三和・夜久野・大江の3分館が令和6年2月22日（木）から2月23日（金・祝）までの2日間です。

なお、蔵書点検に伴い中央館では2月13日（火）から2月16日（金）までの4日間、三和・夜久野・大江の3分館は2月22日（木）を臨時休館といたします。説明は以上です。

6 図書館協議会委員の公募について

内容：図書館協議会委員の公募について事務局から説明

事務局：図書館協議会委員の任期については2年になっており、現在の委員の皆様の任期については来年の5月末までとなっています。団体選出や学識経験者でお世話になっている委員さんについては、改めてお願いをさせていただきますし、公募の委員さんについては改めてご応募いただきたいと思っております。スケジュールとしては3月公募、4月選考、6月又は7月に第1回の図書館協議会を開催するような形で動いていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

<閉会挨拶>